

# 米をめぐる状況について



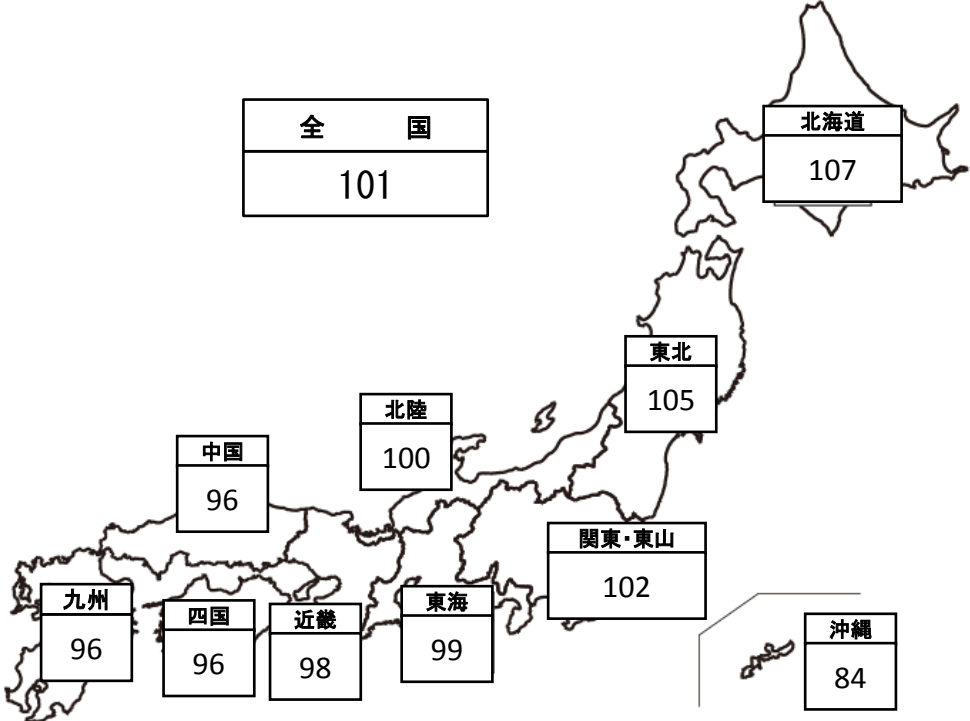
平成26年12月

農林水産省

平成26年産水稻の作付面積及び収穫量（平成26年12月5日公表）

- 平成26年産の水稻作付面積(主食用米)は147.4万haで、前年産に比べて4.8万haの減少(対前年比96.8%)が見込まれる。
- 全国の10a当たり収量は536kg(作況指数101)と見込まれる。  
これは、北海道から関東・東山では、登熟が総じて平年を下回っているものの、全もみ数が総じて多くなっていることから作柄がおおむね平年並み以上となった一方、東海以西では、日照不足・低温や一部地域での病虫害等の影響で全もみ数及び登熟が平年を下回ったためである。
- この結果、収穫量(主食用)は788万トンで、前年産に比べて30万トンの減少(対前年比96.3%)が見込まれる。

全国農業地域別作況指数

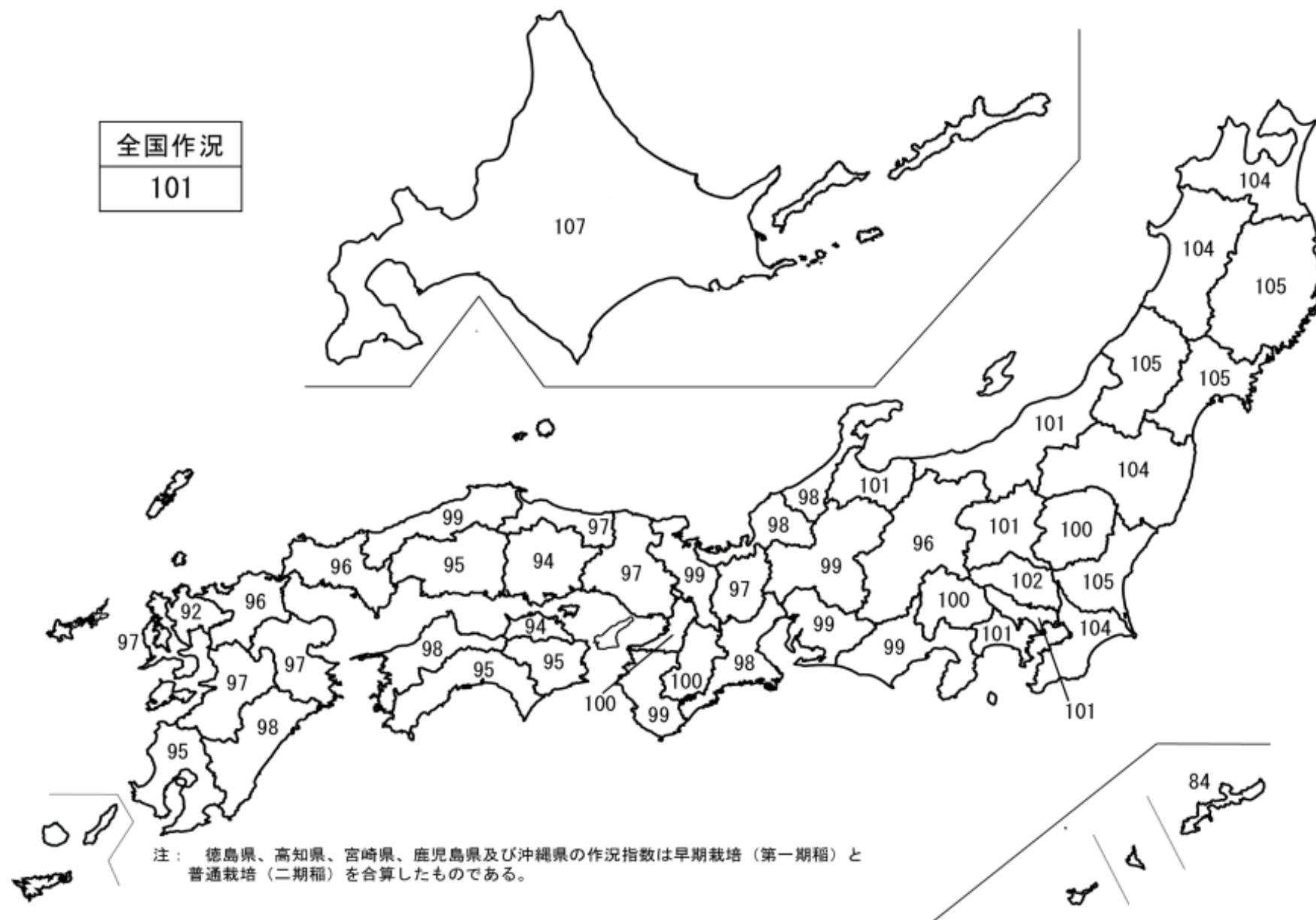


平成26年産水稻の作付面積及び収穫量(全国農業地域別)

全国 農業地域	水 陸 稲 計		水 稻					参 考	
	作付面積 (子実用)	収穫量 (子実用)	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	10a当たり 平年収量	作況指数 ⑤=②/④	主食用 作付面積 ⑥	収穫量 (主食用) ⑦=⑥×②
	ha	t	ha	kg	t	kg		ha	t
全国	1,575,000	8,439,000	1,573,000	536	8,435,000	530	101	1,474,000	7,882,000
北海道	111,000	640,500	111,000	577	640,500	537	107	103,500	597,200
東北	402,500	2,354,000	402,500	585	2,354,000	559	105	361,100	2,109,000
北陸	212,500	1,139,000	212,500	536	1,139,000	534	100	190,000	1,019,000
関東・東山	294,200	1,598,000	292,800	544	1,594,000	535	102	279,800	1,524,000
東海	99,700	495,100	99,700	497	495,100	503	99	97,500	483,600
近畿	108,000	537,100	108,000	497	537,100	509	98	104,500	519,900
中国	112,600	556,900	112,600	495	556,900	517	96	108,700	536,600
四国	55,300	256,200	55,300	463	256,200	484	96	54,500	253,000
九州	178,200	858,800	178,200	482	858,800	502	96	173,700	837,300
沖縄	860	2,240	860	261	2,240	309	84	860	2,240

注:収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)については、都道府県ごとの積上げ値であるため表頭の計算は一致しない場合がある。

## 全国・都道府県別作況指数



平成26年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況(都道府県別概数値)

- 全国平均でみると、1.85mm未満のふるい下米の重量割合は4.2%と見込まれ、過去5か年平均値と比べて0.4%多くなっている。
- 都道府県別でみると、茨城県、千葉県、埼玉県等の一部の県で1.85mm未満のふるい下米の重量割合が過去5か年平均値に比べて少なく、東海以西の多くの県ではふるい下米が多くなっている。

全 国  都道府県	ふるい目幅別重量分布状況			過去5か年 平均値との差
	計	1.70～ 1.85mm未満	1.85mm 以上	1.70～ 1.85mm未満
	%	%	%	
全 国	100.0	4.2	95.8	0.4
北 海 道	100.0	3.3	96.7	0.2
青 森	100.0	3.5	96.5	0.8
岩 手	100.0	3.3	96.7	0.9
宮 城	100.0	3.0	97.0	0.6
秋 田	100.0	3.4	96.6	0.0
山 形	100.0	2.7	97.3	0.0
福 島	100.0	3.2	96.8	0.6
茨 城	100.0	3.0	97.0	△ 1.1
栃 木	100.0	4.3	95.7	△ 0.1
群 馬	100.0	6.5	93.5	0.2
埼 玉	100.0	5.5	94.5	△ 0.4
千 葉	100.0	3.4	96.6	△ 0.9
東 京	100.0	7.7	92.3	3.2
神 奈 川	100.0	7.8	92.2	2.1
新 潟	100.0	3.3	96.7	0.2
富 山	100.0	2.8	97.2	0.4
石 川	100.0	3.0	97.0	0.3
福 井	100.0	4.2	95.8	0.7
山 梨	100.0	5.2	94.8	0.7
長 野	100.0	4.5	95.5	1.1
岐 阜	100.0	4.7	95.3	1.1
静 岡	100.0	4.1	95.9	1.2
愛 知	100.0	3.7	96.3	0.7

全 国  都道府県	ふるい目幅別重量分布状況			過去5か年 平均値との差
	計	1.70～ 1.85mm未満	1.85mm 以上	1.70～ 1.85mm未満
	%	%	%	
三 重	100.0	5.2	94.8	0.8
滋 賀	100.0	5.2	94.8	0.8
京 都	100.0	3.9	96.1	0.7
大 阪	100.0	7.7	92.3	0.9
兵 庫	100.0	5.5	94.5	0.6
奈 良	100.0	3.8	96.2	△ 0.6
和 歌 山	100.0	4.6	95.4	0.4
鳥 取	100.0	4.2	95.8	0.6
島 根	100.0	4.1	95.9	1.2
岡 山	100.0	5.3	94.7	1.3
広 島	100.0	4.4	95.6	0.9
山 口	100.0	5.1	94.9	0.9
徳 島	100.0	7.2	92.8	2.2
香 川	100.0	8.2	91.8	0.8
愛 媛	100.0	6.0	94.0	1.1
高 知	100.0	3.4	96.6	△ 0.3
福 岡	100.0	8.1	91.9	2.0
佐 賀	100.0	6.0	94.0	0.1
長 崎	100.0	7.7	92.3	1.0
熊 本	100.0	7.1	92.9	1.3
大 分	100.0	8.7	91.3	1.1
宮 崎	100.0	5.6	94.4	0.7
鹿 児 島	100.0	6.7	93.3	1.9
沖 縄	100.0	8.8	91.2	2.2

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。  
2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

# 26年産米の作柄概況と需給①

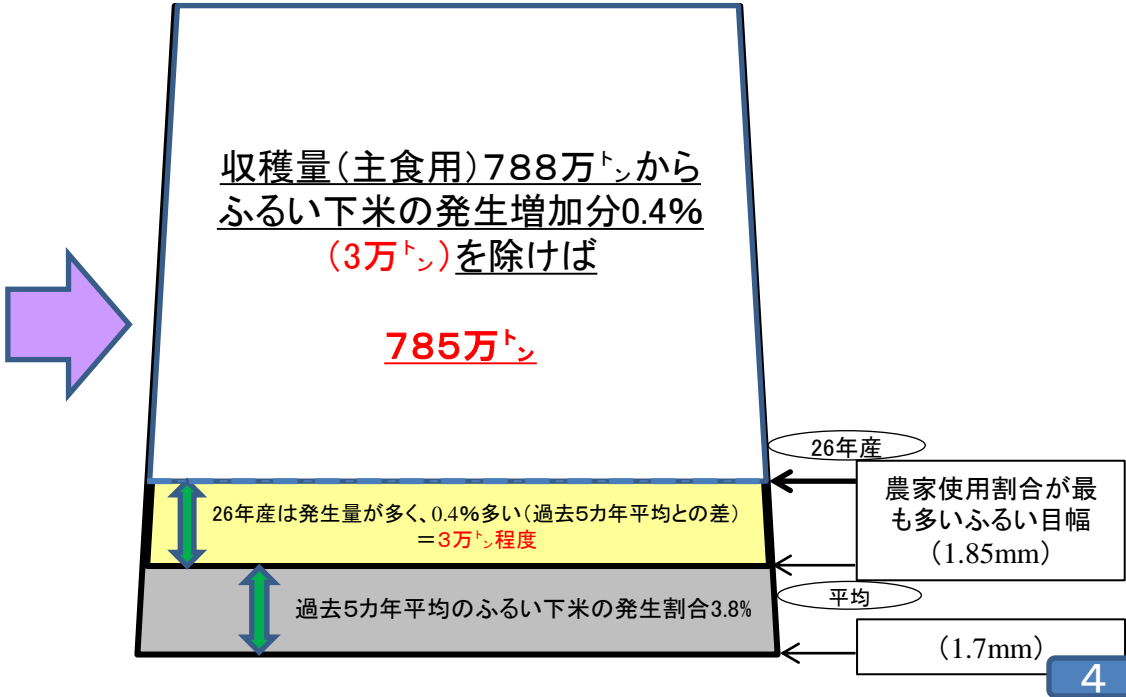
## ふるい下米の発生状況

- 作柄概況で使用するふるい目(主食用として出荷される粒の大きさを示すふるい)は、1.70mm以上となっている。
- 実際の生産現場ではそれより大きな1.85～1.90mmのふるいにかけて出荷されている。
- 26年産米について、ふるい下米の発生状況(ふるい目幅1.70mm以上～1.85mm未満の米の重量割合)をみると、もみ数が多い地域において登熟が平年を下回っており、全国的にふるい下の割合は過去5年に比べて0.4%増となっている。
- したがって、ふるい下の発生量の増加分、流通量が収穫量(主食用)から例年以上に減少する可能性があると考えられる。

### ○26年産のふるい下発生状況

(ふるい目幅1.70mm以上1.85mm未満の間の米の重量割合)

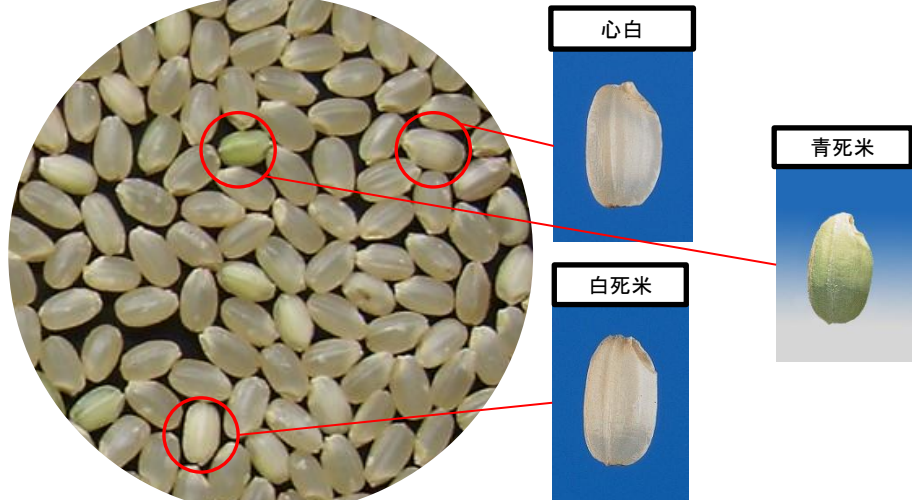
	26年産 ①	過去5カ年平均 ②	①－②
全 国	4.2%	3.8%	0.4%
北 海 道	3.3%	3.1%	0.2%
東 北	3.2%	2.7%	0.5%
北 陸	3.3%	3.1%	0.2%
関 東・東 山	4.1%	4.4%	▲0.3%
東 海	4.5%	3.6%	0.9%
近 畿	5.0%	4.5%	0.5%
中 国	4.8%	3.7%	1.1%
四 国	6.2%	5.2%	1.0%
九 州	7.2%	5.9%	1.3%



26年産米の作柄概況と需給②

青死米等の発生状況

- 26年産米は、登熟不良の地域が多く、調製後のふるい上に、青死米等が例年より多く残っていると指摘されている。  
ふるいに残った青死米等は、一般的には、通常の米に混入して、農家からJAを通じて主食用米として出荷された後、卸売業者の段階で精米を行う場合に、粉状に砕けるか、色彩選別機で除外（一部地域ではJAの段階で色彩選別機で除外）されるため、流通量が収穫量（主食用）よりも例年以上に減少する可能性があると考えられる。
- このため、作柄概況のサンプルを抽出し、青死米等（青未熟粒を除く）を調査したところ、混入割合が6.4%となっている。
- また、平年との比較を行うため、日本精米工業会における過去データ（22～24年産）との比較を行ったところ、本年産では平均で2.1%の増加となっている。



○平成26年産水稻における青死米等調査の概要

(1)使用サンプルは、地方農政局又は地域センターの作況標本筆から無作為に抽出した筆の刈取り試料のうちの約1割に当たる約1千点について、水稻収穫量調査の算定に用いた1.70mm以上の米を20g程度に縮分したものを使用。

(2)抽出したサンプルについては、縮分サンプルから青死米等（青死米、白死米、着色粒、心白・腹白粒）を仕分け、その重量を計測。

(3)計測結果については、地方農政局の統計部と生産部局が協力の上集計し、1.70mm以上の重量に占める青死米等の混入割合を算出。

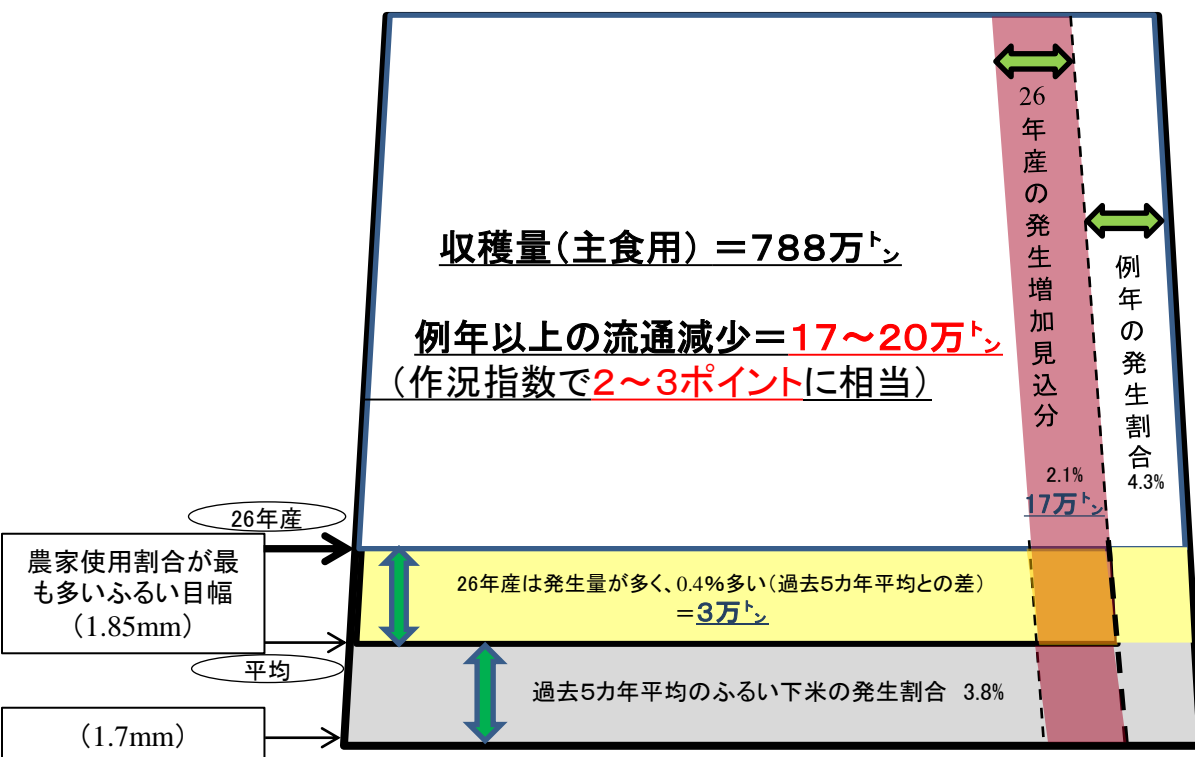
青死米等の発生状況			
単位：%			
	26年産 青死米等の 混入割合 ①	(参考) 精米工業会データによる 過去の青死米等の 混入割合 ②	26年産と平年 との比較 ①－②
全 国	6.4	4.3	2.1
北 海 道	17.3	5.2	12.1
東 北	3.9	4.1	▲ 0.2
北 陸	8.6	2.4	6.2
関 東・東 山	5.5	3.9	1.6
東 海	8.9	8.2	0.7
近 畿	9.0	2.8	6.2
中 国	4.0	4.5	▲ 0.5
四 国	5.4	6.5	▲ 1.1
九 州	2.9	4.9	▲ 2.0

注： ②の参考データ（青死米等の混入割合）は、日本精米工業会の過去データ（22年～24年産）を農林水産省でブロック別に集計したもの。

## 26年産米の作柄概況と需給③

- 26年産主食用米については、
  - ①ふるい下米の増加分が3万ト程度、
  - ②青死米等の発生増加分が17万ト程度あり、この分、流通量が収穫量(主食用)よりも減少する可能性があると考えられる。
- これらについては、一部、両者の重なり部分があると考えられることから、収穫量(主食用)から例年以上に減少する可能性があるのは▲17万ト～▲20万ト(▲3万ト+▲17万ト)と考えられる。なお、これは、作況指数では2～3ポイントに相当。

### 26年産米の状況(イメージ)



平成26年産米における青死米等の発生の増加見込みは2.1%。

したがって1.7mmふるい上の青死米等の発生増加分は、

$$788万ト \times 2.1\% = 17万ト$$

と見込まれる。



平成26/27年の主食用米等の需給見通し

- 26年産米の水稻収穫量（主食用）については、12月5日公表の作柄概況では前年よりも▲30万ト減少し、788万トとなっている。
- しかしながら、日照不足等の天候不順の影響から、登熟不良等により、例年よりも、ふるい下米の発生量や、青死米等が増加している状況にあり、増加量に相当する▲17万ト～▲20万ト分、流通量が予想収穫量(主食用)よりも減少する可能性があると考えられる。（作況指数2～3ポイントに相当）。
- また、需要量についても、過去のトレンドに基づき前年と比べ▲9万トンの減少を見込んでいるが、26年産米の相対取引価格が前年よりも低下する中で、今後、需要の回復の有無などその動向を注視する必要。  
〔 最近において、前年よりも米価が大幅に低下した年産においては、いずれも需要が前年を上回っている。 〕  
（19年産：+17万ト、22年産：+6万ト、25年産：+6万ト）

○平成25年7月～平成26年6月(実績)

(単位: 万トン)

	主食用米等
平成25年6月末民間在庫量 A	224
平成25年産生産量 B	818
平成25/26年主食用米等供給量計 C=A+B	1,042
平成25/26年主食用米等需要量 D	787
平成26年6月末民間在庫量 E=C-D	(※) 255

※ 255万トンのうち35万トンについては、米穀機構が既に関入非主食用に販売。

○平成26年7月～平成27年6月(需給見通し)

(単位: 万トン)

	主食用米等
平成26年6月末民間在庫量 A	220
平成26年産主食用米等生産量 B	788
平成26/27年主食用米等供給量計 C=A+B	1,008
平成26/27年主食用米等需要量 D	778
平成27年6月末民間在庫量 E=C-D	230

注1: 平成26年産米のふるい下米や青死米等は、天候不順の影響に伴う登熟不良等により例年に比べ多く発生している状況にあることから、実際に主食用米等として流通する量は、例年よりも17～20万トン程度減少し、これにより平成27年6月末民間在庫量も減少する可能性がある。  
注2: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

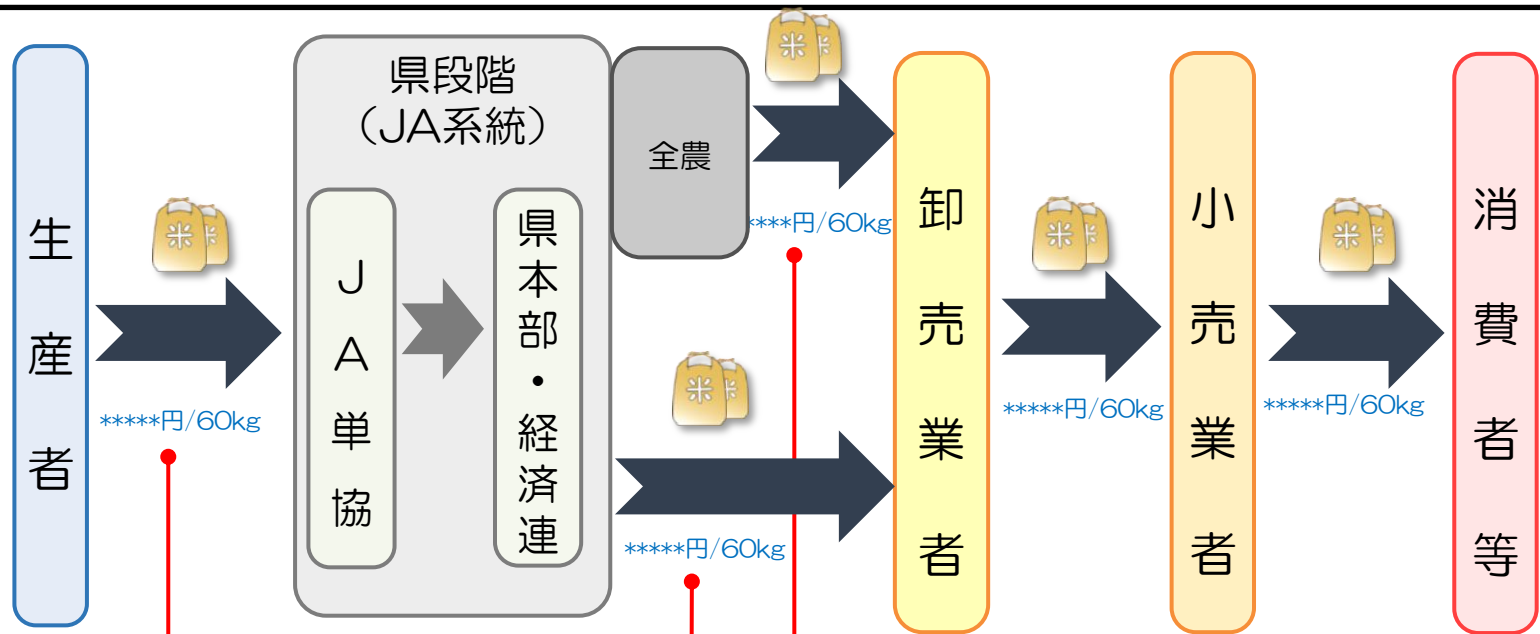
○最近において米の相対取引価格が前年よりも1,000円以上低下した場合の需要実績

	19年産(19/20年)	22年産(22/23年)	25年産(25/26年)
相対取引価格の前年差(60kg当たり)	▲ 1,039円	▲ 1,759円	▲ 2,157円
需要実績の前年差	+ 17万トン	+ 6万トン	+ 6万トン



# 米の主な流通経路及び概算金決定の流れ

- 米の概算金は、JA等の集荷業者が生産者の出荷の際に支払う仮渡金であり、県単位で全農県本部・経済連が決定。  
※ JA単位で独自に上乗せする場合もある。
- また、全農県本部・経済連は販売の見通しが立った時点で、販売見込額から経費・概算金を除いた額を生産者に追加払い。
- 全農・経済連から卸売業者等に対する販売は、全農・経済連が相対取引基準価格(定価のようなもの)を踏まえ、卸等と協議して決められている。



**概算金：** 出荷した際に支払われる仮渡金

概算金の水準は、各県の全農県本部・経済連が、それぞれ独自に決定。

販売の見通しが立った時点で追加支払い

**相対取引価格：** 出荷団体(業者)・卸売業者間で取引されている価格 (国が公表)

実際の相対取引に際し、卸売業者等に販売する際の定価として、全農県本部・経済連は相対取引基準価格を事前に設定。

# 26年産米の概算金・相対基準価格の動向について

- 26年産米の概算金について、26年産の生産量は前年よりも大きく減少すると見込まれるものの、
  - ① 「民間在庫が大きく、作柄も良い(民間調査会社:作況102)」など26年産は需給緩和傾向とこれまで報じられてきたこと
  - ② スポット取引や先物取引の価格が低下していること
  - ③ 各県段階のJA系統では、できるだけ早く売り切りたい、共同計算赤字になるリスクを小さくしたいとの意識が根強いことなどを背景として、各県のJA系統は概算金を前年よりも大幅に引き下げて設定しているところ(前年から▲2,000～▲3,000円)。
- また、JA系統の販売予定価格と概算金との間には差があり、農家所得の確保の観点からは、適切な価格での販売、販売費の縮減等のJA系統における販売努力も求められるところ。

## 26年産米の概算金・相対取引基準価格（県本部・経済連が卸等に販売する際の定価（販売予定価格））の設定状況

産地銘柄		概算金			26年産相対取引基準価格	26年産米の概算金と相対取引基準価格との差 E=D-B
		25年産	26年産	対前年差		
		A	B	C=B-A		
北海道	なつぽし	12,000	10,000	▲ 2,000	13,180	+3,180
青森	つがるロマン	10,800	7,600	▲ 3,200	11,830	+4,230
岩手	ひとめぼれ（A地区）	11,200	8,400	▲ 2,800	13,018	+4,618
宮城	ひとめぼれ	11,200	8,400	▲ 2,800	13,342	+4,942
秋田	あきたこまち	11,500	8,500	▲ 3,000	13,342	+4,842
山形	はえぬき	11,000	8,500	▲ 2,500	13,126	+4,626
福島	コシヒカリ（会津）	12,100	10,000	▲ 2,100	14,530	+4,530
	コシヒカリ（中通り）	11,100	7,200	▲ 3,900	12,586	+5,386
茨城	コシヒカリ	11,500	9,000	▲ 2,500	13,666	+4,666
栃木	コシヒカリ	11,800	8,000	▲ 3,800	13,666	+5,666
埼玉	コシヒカリ（A地区）	12,100	8,000	▲ 4,100	13,126	+5,126
千葉	コシヒカリ	11,700	9,000	▲ 2,700	13,666	+4,666
神奈川	キヌヒカリ	11,300	10,200	▲ 1,100	13,126	+2,926
新潟	コシヒカリ（一般）	13,700	12,000	▲ 1,700	16,366	+4,366
	こしいぶき	11,700	9,000	▲ 2,700	12,586	+3,586
富山	コシヒカリ	12,300	10,500	▲ 1,800	14,530	+4,030

(概算金単位：円/60kg、1等) (相対取引基準価格単位：円/60kg、1等、包装代・税込)

産地銘柄		概算金			26年産相対取引基準価格	26年産米の概算金と相対取引基準価格との差 E=D-B
		25年産	26年産	対前年差		
		A	B	C=B-A		
石川	コシヒカリ	12,000	10,000	▲ 2,000	14,206	+4,206
岐阜	コシヒカリ（特A）	12,200	9,700	▲ 2,500	13,932	+4,232
福井	コシヒカリ	12,000	10,000	▲ 2,000	14,206	+4,206
三重	コシヒカリ（一般）	11,700	9,000	▲ 2,700	13,666	+4,666
静岡	コシヒカリ	12,060	9,300	▲ 2,760	13,450	+4,150
愛知	コシヒカリ	12,400	9,100	▲ 3,300	13,462	+4,362
滋賀	コシヒカリ	12,300	9,200	▲ 3,100	13,666	+4,466
鳥取	コシヒカリ	12,000	9,200	▲ 2,800	13,666	+4,466
島根	コシヒカリ	12,200	9,000	▲ 3,200	13,666	+4,666
岡山	ヒノヒカリ	10,822	8,300	▲ 2,522	12,154	+3,854
広島	コシヒカリ	12,000	9,400	▲ 2,600	13,176	+3,776
山口	コシヒカリ	12,240	9,000	▲ 3,240	13,666	+4,666
福岡	夢つくし	12,600	10,620	▲ 1,980	15,286	+4,666
佐賀	夢しずく	10,000	8,000	▲ 2,000	13,342	+5,342
長崎	コシヒカリ	12,300	10,400	▲ 1,900	14,206	+3,806
熊本	コシヒカリ	12,240	10,740	▲ 1,500	14,530	+3,790

※業界紙の情報を基に農林水産省でまとめたもの